キミに続く

深山　奏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
キミに続く

【Ｎコード】
Ｎ９３８８Ｘ

【作者名】
深山　奏

【あらすじ】
現代／幼馴染／高校生／切ない／全年齢ＯＫ／ほのぼの／ＢＬぎみ／
ある日、幼馴染から「自分は養子」だと打ち明けられ、二人で生みの親の家を訪ねる話です。
ＨＰにてＵＰしています。

キミに続く　#０４

僕たちはまた黙って、車窓の外を流れていく景色に見やった。
単調な電車の音が心地いい。
雪博がなにを感じてなにを考えているのか、僕には分からないけど、僕はこの風景を覚えておこうと思った。おばあさんのしわくちゃで節の曲がった柔らかくて温かい手や、かりんとうのほのかな甘みや、刈り終わった後の稲や湿った土の匂いや、土道の感触や、僕たちの街よりずっとずっと広くて高くて澄み切った空の色なんかを、全部。
椅子の上に投げ出した僕の手に雪博が手を重ねる。
僕は手を引っくり返して、雪博の手をそっと握った。すると雪博が僕よりもほんの少しだけ強い力で僕の手を握り返した。
「ついてきてくれてサンキュウな」
「いいよ別に、このくらい」
いつでも言って、と続けそうになって、僕は言葉を飲みこんだ。二度目はないような気がしたから。
それからしばらくして、雪博はおばあさんの家に引っ越した。高校も向こうの農業系の高校に編入するそうだ。
雪博のおばさんとおじさん――雪博の育ての親――も弟も妹も、家族中でテレビのホームドラマみたいな展開を繰り広げて雪博を引き止めたけど、雪博は最後まで首を縦に振らなかった。
「戸籍は移してないから、家族なんだけどな。育ててもらった恩みたいなのもあるし、返していきたいと思ってるけど、ばあさん一人にしとくのも、ちょっとな……」
そう言って笑った雪博は僕よりもずっとずっと大人に見えた。
「あっちに行く前は、ただ血が繋がってるってだけの他人だろって思ってた。ほら、そんなことわざだが慣用句だか、あるじゃん。でもなんかばあさんに会って変わったっていうか……自分でも変だな

って思うんだよな。ただＤＮＡが他の奴よりちょっとだけ同じってだけなのにって」
「遊びに行くよ」
おばあさんも遠慮しないで来いって言ってくれたし。
「おう。俺も。たまにはむこうにも帰んねぇと、あいつらもヘソ曲げるし」
雪博が苦笑いする。僕も同じように笑って答える。
「それ、あり得る」
別に、もう一生会えないってわけじゃないのに、なんでこんなに胸が痛いんだろう。
電車の音が近づいてきて、一時間に一本しかない電車が、小屋みたいな駅に入ってくる。
この間はここで雪博にクッキーもらったんだよな。バニラ味の。
電車がホームに滑りこんできて、雪博が立ちあがる。
「じゃ、俺行くわ。野菜、できたら送ってやるよ」
「あ、うん。ありがと……」
僕は下手くそな笑顔を浮かべる。それからポケットに手を突っこんで、小さく折りたたんだ制服のネクタイを取り出す。
「これ……」
「俺のやったタイ？」
「違う。僕の。雪博がくれたやつは家にある。これは雪博が持ってて」
なにか交換したくて、でも言いだせなくて、僕は雪博から譲り受けた制服のネクタイと自分のネクタイを交換することにした。だって制服一式交換しても、雪博には邪魔なだけだし。
雪博は苦笑しながらも僕のタイを受け取る。
「俺、次んとこ学ランだって。言ったじゃん」
「そうだけど……いいじゃん、タイくらい邪魔になんないんだし」
「まあ、いいけど。別に」
電車の車掌がこっちを見てる。こいつらは乗るのか？　乗らない

のか？　みたいに。
雪博も気づいて、車掌に「乗ります」と声をかける。
「じゃ、また……」
雪博が右手を上げる。
「うん、また」
僕は雪博の手をパンと叩いて言う。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9388x/

キミに続く

2011年10月26日05時13分発行